

令和7年度藤枝西高等学校第1回学校運営協議会議事録

1 日 時 令和7年6月12日（木） 午後2時から4時

2 場 所 藤枝西高等学校 応接室

3 参加者

会 長	鈴木 尚夫
副会長	高橋 等
委 員	木村 功
委 員	福與しほり
委 員	伊東 邦雄
委 員	松本真由美

校長（竹村）、副校長（和田）、教頭（平林）、事務長（新美）、総務・図書課長（小澤）
教務・情報課長（平井）、生徒・保健課長（東）、進路・探究課長（藤田）

4 内 容 司会：副校長（協議の進行は会長）

（1）校長挨拶

- ・令和7年度の入学選抜試験で168名の新入生を迎え入れた。現在、各学年4クラス、全校生徒484人でスタート。
- ・運動部の高校総体予選、文化部の各活動、いずれも大変よく頑張っている。
- ・本年度の全国高校総合文化祭に美術・工芸部門で美術部の藤野景士さんの作品が出展。
- ・コミュニティ・スクール事業として定着した学習支援の取組が地域で高い評価。令和6年度から藤枝市生涯学習センターにおいても学習支援の取組を開始した。令和7年度から生徒会委員会にCS委員会を新たに設置。

（2）任命状の交付

（3）会長及び副会長の選出

（会長に伊藤委員より鈴木委員を推薦、全会一致で鈴木尚夫会長選出、会長より副会長に高橋委員を推薦、全会一致で高橋副会長選出。）

（4）学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）について

学校運営協議会制度とは、学校と保護者、地域の方々が力を合わせて学校の運営に取り組むことができる仕組みであり、協議会の委員は、教育委員会が任命する。

主な機能としては、学校運営について、基本方針の理解と承認をしていただいた上で、意見をいただく。課題解決のための「協議の場」として学校の外から見た気づきを与えていただきたい。それぞれの立場で取り組み内容を協議することで、子どもたちにとってより良い形に学校を整えていく。

（5）学校見学

（6）自己紹介

（7）令和7年度学校経営計画について

（8）学校概要説明（各分掌より）

ア 教務・情報課

教育課程の編成、学習評価、行事予定の調整などを行っている。

時間が限られている中、生徒に充実感が得られる行事を精選している。

新学習指導要領の教育課程が春の卒業生で一巡した。現行の教育課程が、生徒の実情に応じたものになっているか、観点別評価が客観的なものになっているかを本年度検証していく。

イ 生徒・保健課

文化祭は1296名来場、地域の方にも来場していただけたと思う。生徒が計画段階から、主体的に取り組み、楽しみながら終えることができた。キッチンカーの導入等の新しい試みをした。

本年度は発達支持的生徒指導について研究すること、生徒にとって安全で安心できる

環境を整えること、健康的な生活を送るための資質や能力・実践力を養うことの3点を目指している。生徒の自己有用感・肯定感をはぐくむボイスシャワーを心がけたり、コミュニティ・スクール事業など生徒が活躍する場面を設定したりしたい。職員研修では授業のユニバーサルデザイン化の研修を企画している。野球応援について、昨年同様十分に熱中症対策をしながら、1年生の全員参加で実施する。

ウ 進路・探究課

生徒一人一人の進路実現を図るため、進路・探究課では、各学年部と連携し、生徒の主体的な進路実現を組織的にサポートすることを目標としている。1年生は文理選択、2年生は科目選択、3年生は志望理由書の作成を柱とし、自己理解を深めたうえで社会とどのように関わり貢献していくのかを考える。探究的な学習の時間も充実させながら、進路実現とキャリアデザインをサポートしていく。

エ 総務・図書課

図書担当としては、朝読書に取り組んでいる。読書の定着・読む力、読み解く力・表現する力が身に着けていければ、よいと考えている。

PTAは来年度、志太榛原地区主幹校、テレビ寺子屋の担当にもなる。

総務・図書課は広報も担当しており、Instagram等の更新を積極的に行っている。

(9) 意見交換

- A：西高の生徒たちは、なぜあんなに明るくて良い子たちなのか、その理由が気になる。良い雰囲気があるのは何故なのか。
- B：本校に来た子どもたちは叱責などの指導を受けていない生徒が多いのではないかと。スクールカウンセラーの経験から、自己理解の難しさを感じる。質問を重ねながら、自分自身に気づかせていくことが大切だ。社会に出たときどう生きるか、その視点も持つ必要がある。不登校の子どもへの親御さんには、不登校期間は人生全体から見れば短いものだと言っている。高校時代には、自分は将来どうなりたいのか、社会をイメージしながら考えてほしい。
- C：皆さんが、生徒一人ひとりの将来について真剣に考えてくださっていることが伝わってきた。子供たちが幸せになっていく姿を見るのは、保護者としてとても嬉しい。
- D：学力定着には教員による授業改善だけでなく、学ぶ側の視点やメッセージも非常に重要で、取り組み具現化の柱として学習改善が入っているのはよい。そのうえで、何をもちえて学習改善とするのか、その基準や視点をわかりやすく示す必要がある。進路選択については、『自己実現』や『選択力』を養うことが重要。
- E：グループ学習などの主体的な学びの授業を見る機会があり、刺激になった。授業自体が楽しいという第一印象だが、それ以上にプロジェクターなどICTツールを巧みに使うようになっている点は評価できる。大学でも支援を必要とする学生への対応が進んできている。高校ではどうなのか。情報化社会ではAI技術も不可欠となっている。以前はAIを論文で使われたら困ると言われていたが、今ではAIが使えないと困る時代になっている。
- F：協議会のメンバーで力を合わせて、学校の課題に取り組んでいきたい。